（オ）ＣＯＰＤ（慢性閉塞性肺疾患）

ＣＯＰＤは、たばこの煙を主とする有害物質が長期に気道に触れることによって起きる炎症性の疾患です。主な症状としては咳・痰・息切れがあり、緩やかに呼吸障害が進行し、喫煙者の２０～５０％がＣＯＰＤを発症するとされています。

進行性の病気であり、細気管支や肺胞に起こった病変は、治療を行っても完全に元の状態に戻すことはできないことから、早い時期に治療を開始し、重症化させないことが重要です。

＜県の現状＞　※健康ちば２１（第２次）の最終評価から抜粋

「ＣＯＰＤの認知度の向上」

やや増加していますが、目標値に達していません。男女別では、男性で４７．７％、女性で５３．４％と、女性で認知度がやや高くなっています。また、喫煙状況別にみると、現在たばこを吸っている人の認知度は、６４．３％であり、非喫煙者よりも高い傾向があります。

	計画策定時 (H25)	中間評価 (H29)	最終評価 (R3)	第２次目標値 (R4)
男女 （男性） （女性）	47.7% (44.9%) (50.1%)	43.8% (39.6%) (47.1%)	50.7% (47.7%) (53.4%)	80.0% — —

（データソース：生活習慣に関するアンケート調査）

＜県の課題＞

○　健診等の機会を活用し、ＣＯＰＤに関する適切な情報を提供するとともに、認知度は目標値に達していないことを踏まえて、更に県民に向けて広く周知を図ることが必要です。

○　ＣＯＰＤ患者の多くが喫煙者であることから、禁煙を希望する人がすぐに行動できるよう、禁煙に関する情報提供や人材の育成などの環境を整えることが必要です。

＜県が実施する具体的施策・取組の方向性＞

１　県民への普及啓発

○　ＣＯＰＤの認知度を高め、喫煙との関係や禁煙、有症時の早期受診などについての情報を、ＳＮＳ・県ホームページで発信することで、早期発見に繋げます。

２　特定健康診査・特定保健指導の効果的な実施を支援

○　特定保健指導従事者の研修において、ＣＯＰＤの理解や予防、重症化

予防に向けた禁煙指導等に役立つプログラムを取り入れます。

3　喫煙者の禁煙を支援

○　禁煙支援を行う地域保健従事者の育成と資質の向上を図ります。

○　禁煙治療に関する情報をタイムリーに得られるよう、リーフレット作成やホームページへの掲載をします。

○　喫煙者が禁煙に取り組む際の後押しができるように、職場の衛生管理者や禁煙をサポートしたい人向けの研修会を開催します。

＜目標＞

No	目標項目	現状値	目標値（R14年度）
1	ＣＯＰＤの死亡率の減少（人口１０万人当たり）	11.6（R3年度）	10.0

「 COPD とタバコの関係 」

（担当：健康福祉部健康づくり支援課健康ちば推進班）

ＣＯＰＤとは・・・

たばこの煙を主とする有害物質が長期に気道や肺に触れることによって起きる肺の炎症性疾患です。

ゆっくり呼吸障害が進行し、心血管疾患、消化器疾患、糖尿病、骨粗鬆症、うつなどの依存疾患が多いと言われています。

ＣＯＰＤとタバコの関係

・喫煙者は、２０～５０％がＣＯＰＤを発症するとされています。

・喫煙者は非喫煙者に比べてＣＯＰＤによる死亡率が約１０倍高くなっています。

・受動喫煙もＣＯＰＤの危険因子のひとつです。

病状初期は自覚症状に乏しいケースが多いこと、咳や息切れ等の症状を風邪や年齢のせいと勘違いしやすいことから、多くの患者が受診に至っていない可能性が示唆されています。